

2016.4.25

第1100回例会

2015~16年度

国際ロータリー会長 K・R・ラビンドラン

第2790地区ガバナー 櫻木 英一郎

第3分区Aガバナー補佐 山本 康昭

CHIBA-HIGASHI ROTARY CLUB Weekly Report



Be a gift
to the world

世界への
プレゼントになろう

地区テーマ 「原点を知り、考える」

会長テーマ 「ロータリーを知り、楽しもう」

会長 武田 康
幹事 穴倉 壽夫

本日のお客様

日本赤十字社千葉県本部 高橋満徳様

会長挨拶

武田 康 会長



皆様、こんにちは。

先日の新千葉ロータリー50周年記念例会も盛況のうちに終わりました。

これにて、今年度の関係地区の周年行事はすべて終了しましたわけですが、今、冷静に思い起こしても、私達の、25周年記念例会が、一番輝いて

いたと思っております。

さて、もうすぐ5月です。5月のテーマは、青少年奉仕月間です。ご存じの通り、地区の青少年奉仕委員会は、4つの委員会で構成されています。

ロータリー奉仕活動の中で、インターアクト・ローターアクト・ロータリー青少年指導者養成プログラム(ライラ)・青少年交換・は、一番わかりづらい分野ではないでしょうか。

手続き要覧をのぞいても、目的や目標があまりにも常識的で、しかも多数羅列されており、どうだ? という感じです。

何故に、ロータリアンが高校生や青少年に奉仕をしなければならないのか?

対象年齢でいいますと、インターアクトは、12才から18才、ローターアクトは18才から30才です。ライラは14才から30才です。これらより、インターアクトは中学生や高校生を対象にした活動です。ただ、実際には、高校生が中心のようです。

ローターアクトは高校卒業後、社会で働く者、あるいは、大学在学中の者や、大学卒業後、社会で働く青年が対象になっています。ライラはインターアクトと、ローターアクトの両方の年齢を対象

にしております。ただし、インターアクトは以前14才から18才でライラとの整合性がとれていましたが、2010年・平成22年から12才に変更され、違いが生じました。さて、ますます混乱のラビリンスへと迷い込んだ思いがいたします。

名称の元の意味合いをご紹介致します。インターアクトは、International Action の略です。ローターアクトは、Rotary Action です。ライラは、Rotary Youth Leadership Awards の略です。このことから見えてくるものは、インターアクトの設立は、国際理解と、国際交流を目指したと理解されます。ローターアクトは、まさに青年によるロータリー活動です。ライラは、リーダーシップを発揮する人材への賞、すなわち (Awards) です。いったい何なんだ。だれしもが思う疑問です。

これらの目的は、「将来、ロータリー精神を持って社会に活躍できる人材を養成する事」なのでしよう。若きロータリアンの卵を大切に育てて、次世代のロータリアンの育成の一翼を担って行くことなのであります。一口に、新世代奉仕とおきかえなくとも、若者へのロータリー教育であります。

ほかにも、たくさんの奉仕団体があります。われわれロータリアンはこれら若者にたいして、これから、一体何をすればよいのでしょうか。

インターアクトでは、担当する高校の先生に、ロータリー精神をご理解して頂く事が肝要です。納涼・忘年例会はもとより、親睦を兼ねた会合に先生方をお招きしてみましよう。

ロータリアンが、学校まで乗り込んで奉仕活動を行うことは、理にかないません。

ローターアクトでは、ロータリアンと共に、奉仕活動する機会を提供し、ロータリーの精神をもっと知って頂く必要があります。最後にライラですが、地域社会で奉仕活動をしている青少年を、ロータリー活動に取り込む必要があります。

ロータリアンが経営する高校や企業に所属する若者だけでなく、今までロータリー精神に触れた事が無い若者諸君に対しても、ロータリー精神をご理解して頂くことが重要です。

本日もプログラムは、たいへん充実しております。

七海 順子 (ななみ よりこ) 新会員の入会式・そして、日本赤十字社 千葉県本部 高橋 満徳 (たかはし みつのり) 様の「日本赤十字社の災害救援活動について」のご講演がございました。

おりしも、熊本地震の終息のめどは、いっこうにたっておりません。個人的には、九州大震災とよんでもおかしくないと思っております。

なにとぞ、宜しく願いいたします。

新 入 会 員 入 会 式

七海 順子 会員



お仲間に使させていただきます七海順子と申します。認定こども園をしております。私の目標は「世界のお母さん」になることです。武田先生に出会いロータリーが私の活動の足掛かりになるような気がしました。皆様の仲間になりましていろいろなことを教えてください。どうぞよろしく願いいたします。

幹 事 報 告

穴倉 壽夫 幹事



✦ 平成28年熊本地震への義捐金のお願いについてです。

被災地の2720地区の野田ガバナーから当地区のガバナー事務所へ次の内容の連絡が来

ています。「被災者の当面の避難生活、今後の生活基盤や復興などに必要な義援金をお願いすることで長期的な支援に繋がればと考えています。ご協力とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。」当クラブとしても、本日義援金箱を回覧しますので皆様の善意をお願いします

◇ ローターレートが5月から110円になります。

委 員 会 報 告

千田 直樹 次年度幹事



4月29日(金)地区研修・協議会が開催されます。参加予定されている方は9:30お隣のアパホテルですのお忘れなく。

ゲ ス ト ス ピ ー カ ー 卓 話

日本赤十字社千葉県本部 高橋満徳 様



日頃から赤十字事業の推進につきまして、深いご理解とご支援をいただきお礼申し上げます。

また、今日は貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。

去る4月14日に熊本県で最大震度7の地震が発生いたしましたので、この熊本地震に対する赤十字の救護活動を中心に日本赤十字社の救護活動についてお話しをさせていただきます。

はじめに、赤十字が災害救護を行う根拠ですが、

「災害救助法」において、日本赤十字社はその使命に鑑み、救助に協力しなければならないと規定されており、災害対策基本法等においては、指定公共機関として位置付けられています。つまり、赤十字の救護活動は義務ともいえるわけです。

先の熊本地震は、14日午後9時26分ごろ震度7の地震が発生し、16日には再度マグニチュード7.3、震度7の本震といわれる地震が追い打ちをかけるように発生し、熊本県を中心に甚大な被害が発生しました。赤十字では14日の地震発生直後から地元熊本県支部は情報収集を開始し、熊本赤十字病院では患者の受入をはじめ、救護班を益城町へ派遣しました。更に九州ブロックの赤十字関係機関が応援救護のため活動を開始したところです。現在は、北海道から沖縄まで全国の赤十字が活動しており、千葉県においても救護班や支援要員を派遣したところです。全国に92の赤十字病院がありますが、約490班、6,800人で編成される救護班が常備されており、千葉県においても成田赤十字病院に7名編成の救護班を12班常備しています。

この地震災害に対し、当支部では即刻情報収集を行い、成田赤十字病院でも救護班の派遣準備に入るなど要請に即応できる体制をとりました。その後、赤十字では全国規模で対応することとなり、初動の救護班等を派遣することになりました。

今回の救護班の派遣にあたっては、救急車等の車両がないと現地での活動ができないため、車両2台は18日の夜から夜通し陸路で移動し、救護班は19日に成田空港発の福岡空港行きで移動し、福岡空港で合流後、赤十字熊本県支部に向かいました。陸路の距離は約1,300kmに及ぶものでした。

翌、20日から3日間にわたり救護活動が展開されたわけですが、巡回診療や地元阿蘇医療センターの病院支援などの活動を実施してきたところです。現地ではまだ医療ニーズが十分に把握されておらず、かなり混乱している状況で、日赤以外にもDMATやJMAT(医師会の医療チーム)、TMAT(徳洲会の医療チーム)、DPAT(精神医療のチーム)等が活動していましたが、それぞれが活動エリアを決めていたようで、県レベルでの統制のとれた医療救護体制は出来ていないとのことでした。

派遣した職員によると、避難所には多くの被災者

がおりましたが、余震を恐れて車中で過ごす方々も多く、エコノミークラス症候群やこれらに起因する災害関連死等が心配されるとのことでした。エコノミークラス症候群の対応として、注意喚起を促したり弾性ストッキングの配付なども行っていると聞いています。

当支部では、今後4月末から5月上旬にかけて救護班の第2班、第3班及び支援要員を派遣する予定としております。

医療救護の他にも、赤十字では義援金の募集・受付を行っています。いろいろな機関や団体等も募金など様々な形で義援金を募集しています。これまでの災害において、義援金と赤十字の事業資金（社資：自治会や町内会を通じて赤十字に協力をいただいている資金）の用途について一部誤解などもあるようですので、説明させていただきますと、市民や県民、国民、企業、団体等から寄せられる義援金は、被災県に設置されます義援金配分委員会を通じて、全額が被災者にお渡しされるものです。一方、赤十字の事業資金は、今回のような災害時における救護班の派遣や救護資機材の整備、救援物資の備蓄、その他国際活動や救急法の普及事業、血液事業、ボランティア活動など赤十字の様々な活動を行うための事業資金として活用されるものです。改めてご理解いただければと思います。

ちなみに、東日本大震災の義援金につきましては、3,300億円を超える額が多くの方々から寄せられ、被災者に配分されました。

今年は、東日本大震災から5年を迎えるということで、震災を風化させずにこの教訓を今後の備えとして生かせるよう全社的に取り組んでまいりました。東日本大震災では千葉県も被災県であり震災当日から県内に救護班を派遣し、併せて東北地方にも派遣したところですが、今日はその活動報告書を資料として配付させていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。

皆様方は社会奉仕が活動としてありますが、赤十

字の活動と通ずるものがあり今後一緒にできる活動などもあるかと思っております。

今後とも引き続き赤十字へのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

本日は、貴重なお時間をいただきありがとうございました。



ニ コ ニ コ B O X

辻 会員

七海さん、これからよろしくお願い致します。

穴倉 会員

高橋様、卓話ありがとうございました。日赤への理解が深まりました。

加々井 会員

七海 会員

本日は会員として認めていただき、感謝しております。

高柳 会員

七海様入会おめでとうございます。
高橋様、卓話ありがとうございました。

武田 会長

高橋様、ありがとうございました。

合計 25,000 円

累計 833,191 円

創立：1991年1月21日
認証：1991年3月6日
例会場：ホテルニューオータニ幕張
点鐘：毎月曜日18:30

事務局：千葉市稲毛区穴川3-5-27 上総ビル303
TEL：043(251)2790 FAX043(251)2726
Email：chiba-higashi_rc@jazz.odn.ne.jp
URL：<http://www.chiba-higashi.jp/>

発行 千葉東ロータリークラブ 会報委員長 藤本 俊哉